

白石中学校区地域協育ネットの取組について

～小・中及び地域との連携を通して～

【山口市 白石中学校区】

地域の概要

白石中学校区は、県政・市政の中核的機関や官公署が集まる、旧市内の中心に位置しています。本中学校区には、附属小・附属中・山口高校や、白石地域交流センター・市民会館・山口情報芸術センター・市立図書館・歴史民族資料館・県立図書館・美術館・博物館・埋蔵文化財センターなど、教育・文化施設が集中しています。

また、旧国道9号が校区の中央を南北に走り、主としてその東側は商店街、西側は学校・官公署・住宅地となっています。本中学校区は、北に隣接する大殿中学校区とともに、大内氏が威勢を誇り、西の京といわれた時代から江戸時代・幕末を経て、明治維新に至る遺跡旧跡が各所にあります。戦国城址鴻ノ峰と、伝説を秘めた亀山公園を背にした本中学校区は、名実ともに古都山口市の中心に位置しているといえます。

人口	10,679人	
世帯数	4,835世帯	
対象校及び 児童生徒数	白石中学校	307人
	白石小学校	669人

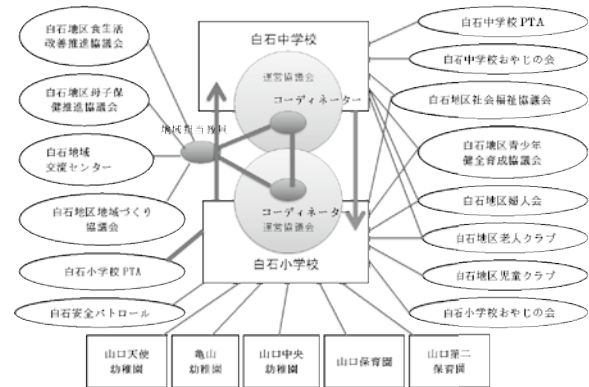
組織の内容

白石小・中学校は、平成23年度からコミュニティ・スクールとして、それぞれ学校運営協議会を組織しています。自治会連合会長、地域交流センター所長や、地域の方々をはじめとした有識者、PTA代表等で構成されています。

小学校では、白石地区地域づくり協議会の事業にPTAが参加し「あいさつ白石」事業を展開し、総合的な学習の時間との連携を図っています。また、今年度も、おやじの会主催による「防災キャンプ」を6年生を対象に地域交流センターと連携して実施し、防災について学ぶよい機会となりました。

中学校では、今年度より学校運営協議会を、連携部（小・中・地域の連携）、知育部（確かな学力の育成）、徳育部（豊かな心の育成）、体育部（健やかな体の育成）の四つの部会で組織しました。

このように、白石小・中学校は、構想図にあるように、多くの地域の方々に支えられ、安心して特色ある教育活動を行うことができているといえます。



白石地域協育ネット構想図

特色・重点的な取組

○ 小中合同学校運営協議会の開催

小・中学校がそれぞれで取り組んでいる教育活動を、共通理解し、共同実践していくために、小・中合同学校運営協議会を本年度2回開催しました。会では、お互いに教育活動の紹介をし、小学校と中学校の連続した教育活動の必要性を改めて認識することができました。

○ 小・中教職員・学校運営協議会委員合同研修会

今年度も、今まで行っていた小中合同教職員研修会を発展させ、学校運営協議会委員との合同研修会を開催しています。小学校・中学校の教職員だけでなく、地域の代表である学校運営協議会委員と膝を交え、地域でどのように子どもを育むかについて真剣に協議しました。

○ あいさつ運動の活性化

あいさつ運動キャラクター（しらっぴー）の決定とのぼり旗の作成を行い、あいさつ運動の活性化を図りました。

○ 小学校の「夏休み学びっ子教室」に、中学生が先生役として参加

中学生が、先生役として学習支援を行いました。児童・生徒ともに目を輝かせて活動することができました。



あいさつ運動キャラクター（しらっぴー）

主な活動の紹介

○ 小中連携

- ・中学校教員が小学校に出向き、出前授業を実施しました。また、2学期には、小学6年生が中学校体育祭での6年生種目に参加したり、中学校を訪問してオープンキャンパス（学校紹介・体験授業・部活動見学など）に参加したりしました。
- ・小・中教職員合同研修会を学校運営協議会委員との合同研修会として開催し、部会別協議を行いました。
- ・中学生が小学校の「夏休み学びっ子教室」の先生役として学習の補助をしました。

○ 地域とのかかわりの広がり

- ・小学校では、縦割り班（全学年で構成した48の小集団）での「ふれあいウォークラリー」を実施しました。当日はPTAの協力のおかげで、各班で校区内を歩きながら「働く人へのインタビュー」、「校区内の名所巡り」など、地域との関わりを深めるチャレンジ課題に取り組みました。6年生の総合的な学習と絡めて子どもたちの思いを生かし、なおかつ地域との連携を図りながら充実した活動を行うことができました。
- ・中学校では、あいさつ運動キャラクターを決定し、のぼり旗を作成することで、あいさつ運動の活性化を図りました。また、生徒会が中心となって、JRC（青少年赤十字）活動としての地域清掃も毎月行いました。休日に多くの生徒が集まり、地域のゴミ拾いや落ち葉清掃などを行いました。10月には、小・中・地域一体となってパークロードの清掃を行いました。地域においては、地域交流センターが主催する「白石地区運動会」、「白石フェスティバル」、社会福祉協議会が開催する「敬老会」などに、中学生がボランティアスタッフとして参加するなど、相互交流を深めています。さらに、中学校を白石地区人権教育学習会の会場としたり、定期的に校長室解放日を設けたりすることで、より多くの方々に来校していただく機会を増やしました。



あいさつ運動



地区運動会ボランティア



地域清掃ボランティア

成果と課題

中学校教員の小学校での出前授業や、小学校6年生の中学校授業体験、さらには中学生の小学生への学習支援など、活発に小・中・地域の交流を行いました。また、学校運営協議会の委員にも参加していただき、小・中教職員合同研修会を開催して2学期からの実践項目を設定したり、小・中・地域一体となって地域のボランティア清掃を行ったりするなど、小・中・地域の連携を強める取組を実現することができました。

このような学習・取組を通して、児童生徒は、今まで以上に白石地域に愛着をもつようになってきているとともに、教職員・地域の方々も、9年間という長い目で白石地区の子どもを育てていこうとする意識が一層高まってきました。今後は、地域とともに小中連携をさらに進めながら、小学生が中学生に「あこがれ」をもち、中学生は地域の大人に「あこがれ」をもつなど、「あこがれ」の輪が広がっていく取組を、更に充実させていく必要があります。

今後の取組

キャリア教育を基盤とした小中連携や地域との連携では、様々な取組を行い成果も上がっています。今後は更に小学校・中学校それぞれが行ってきた教育活動を共通理解し、その中から共同実践できるものや小中が連携して取り組むべきものを再認識したり、今年度の共同実践をよりよいものにするための振り返りをしたりしていく必要があります。また、地域の教育力の活用を推進していくには、地域コーディネーターの存在が欠かせません。今後は、他地区の先進的な取組も参考にしながら更に研究を重ね、地域コーディネーターや小委員会を有効に活用するなど、より一層小・中・地域連携教育を推進していきたいと思えます。